

平成 2 7 年度 事業報告

産業クラスター研究会オホーツク

麻プロジェクトリーダー 舟山 秀太郎

【麻プロジェクト】

日 程	内 容	場 所
8 月 4 日	はまなす財団 地域づくりシンポジウム 2015 ● 事務局が出席し、3月の麻シンポジウムを中心とした取組みを報告	札幌市
8 月 20 日	網走市産業用ヘンプ研究会セミナー ● 松井 博和 北海道大学 名誉教授、 菊地 治己 北海道産業用大麻協会 代表理事 の講演。事務局が出席	網走市
8 月 21 日	第 2 回 北海道ヘンプセミナー ● 舟山リーダーが参加	東川町
2 月 19 日	第 5 回北海道産業用大麻可能性検討会 ● 事務局が出席し、これまでの麻プロジェクトに関する取組みを報告。	札幌市
2 月 26 日	講演会 「大空町ヘンプ研究会」 ● 舟山麻プロジェクトリーダーが北見の現状など、麻に関わる状況を報告	大空町
2 月 26 日	麻プロジェクト会議 ● 第 5 回北海道産業用大麻可能性検討会の報告 ● はまなす財団の支援事業について	北見市工業技術センター



【第2回北海道ヘンプセミナー】

- 昨年3月に北見市で開催した「麻シンポジウム」の講師でもある、栃木県の麻農家である大森由久氏による講演や、松家農園での麻収穫作業の見学も行われた。

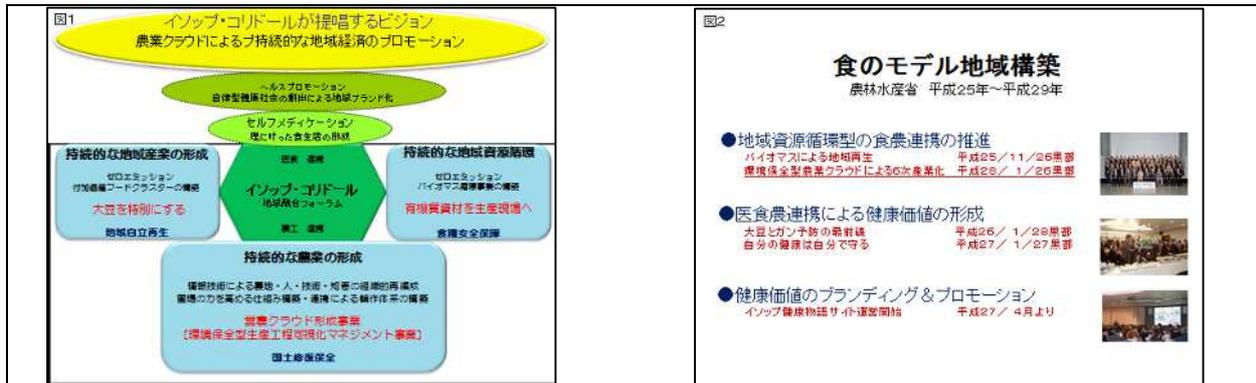


【第5回北海道産業用大麻可能性検討会】

- 事務局である北海道より、平成 30 年度までを期間とする工程表の提示があり、検討会の役割が、【科学的知見の蓄積】・【現行法を逸脱しない】・【北海道農業の振興につながる取組み】の3点を再確認した。
- 道総研から試験栽培、東川町からこれまでの研究栽培、菊地代表理事からは昨年秋の仏視察、当プロジェクトからこれまでの取組みについて報告。

【イソップコリドール】

持続可能な地域経済社会の形成に資する緩やかな連携事業体



(1) ICT活用による精密営農システムの研究開発

～ 収量センシングの開発による全体最適営農の集約～

独自基地局によるRTK GPSインフラ整備

収量センサー付帯コンバインによるトランスボーダファーム

(仮想的農地集約)の研究(土壌マップ・生育マップ・収量マップ解析)



独立RTK GPS基地局整備 収量センサーコンバイン導入&改修検証



(2) 付加価値フードクラスター構築

大豆丸ごととヨーグルト開発

独自乳酸菌の培養・乳酸発酵装置開発・試作品研究開発

いずれも
平成 28 年夏
より販売予定



(3) バイオマスの利活用による事業化研究
 地域融合フォーラム（共催）
 （環境保全型農業クラウドによる6次産業化）
 平成28年1月26日（火）ホテル黒部

提唱
 農業クラウドへの誘い 門脇 武一
 参加者 112名



講演 環境保全型農業を考える
 北海道立総合研究機構農業研究本部
 本部長（農博）志賀 弘行 氏

講演 オホーツクの畑作における、
 堆肥の肥効発現
 東京農業大学生物産業学部
 作物生産管理学研究室
 准教授（農博）中丸 康夫 氏



事業構築

【地域バイオマスの農業資材化技術の開発
 と圃場センシングマネジメントの高度化】
 ~ ノーステック財団との連携



(4) 旧サロマトネルの有効活用調査研究

産学官プラットフォームによる活用手法研究

* 温度・湿度経年データ集約及び農産物・発酵食品等保存調査



（平成28年5月17日現在概況）

* 事業化検討・・・北見側よりのアクセス手法検討
 ~ 遠軽道路により林野庁の許可のみでアクセス可能

【テレワーク】

27年度実施報告 1 ～北海道オホーツクふるさとテレワークシンポジウム

『北見発 日本が変わる最先端シンポジウム』

実施日時: 11月2日(月) 14:00-16:30

開催場所: 北見工業大学

参加人数: 約200名(学生100名、一般100名)

■第1講演 働き方のこれから

グーグル株式会社 日本代表 阿部伸一氏

■第2講演 女性の活躍とふるさとテレワーク

株式会社ワイスタック 代表取締役 田澤由利

■パネルディスカッション

「ICTで、地域は、仕事は、どう変わるか？」

グーグル株式会社 日本代表 阿部伸一氏

株式会社アイエンター 代表取締役 入江 恭広氏

北見工業大学 教授 ミハウ ブタシンスキ氏

北見工業大学 博士後期課程 中島 陽子氏

ミサワホーム総合研究所 富田 幸長

株式会社Waris 代表取締役 田中美和氏

株式会社ロシカル 代表取締役 西野寛明氏

コーディネーター 田澤由利



1

27年度実施報告 2 ～北海道オホーツクふるさとテレワークシンポジウム

■実施報告

27年度北見市と科野町で実施した「北海道オホーツクふるさとテレワーク推進事業」の参加企業代表者等を講師やパネリストとして招き、北見工業大学の学生及び一般市民を対象にシンポジウムを開催した。

グーグルの紹介や働き方、ICTを使ったテレワークの現状、女性の活躍等についての講演、そしてパネルディスカッションではふるさとテレワークが地域にもたらす効果等、さまざまな立場からの情報や意見が出された。

■アンケート結果

講演、パネルディスカッションいずれも非常に役に立ったという評価をいただいた。

■アンケートの感想抜粋

自分自身都会に出て働く、ということしか考えていなかったのですが、今回のお話を聞いてここにどどまって働くという選択肢に気づけて良かったです。

地方の未来が日本の未来、日本の変わり目、世界の変わり目に立ち会っているようで非常に興味深く勉強させて頂きました。楽しかったです！未来が明るく感じました！見えた。

地方の未来が日本の未来、日本の変わり目、世界の変わり目に立ち会っているようで非常に興味深く勉強させて頂きました。

今までは収入の面で都市部に働きたいと考えていましたが、テレワークによってその面が解消されるのなら都市部に引っ越さなくても良くなるので将来について考えるいい機会になりました。



第2講演 「女性の活躍とふるさとテレワーク」田澤由利

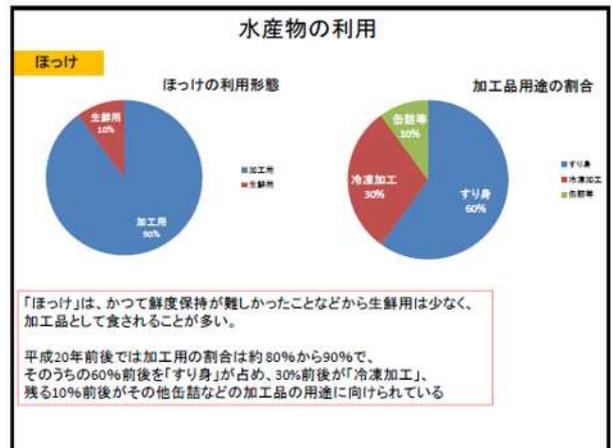
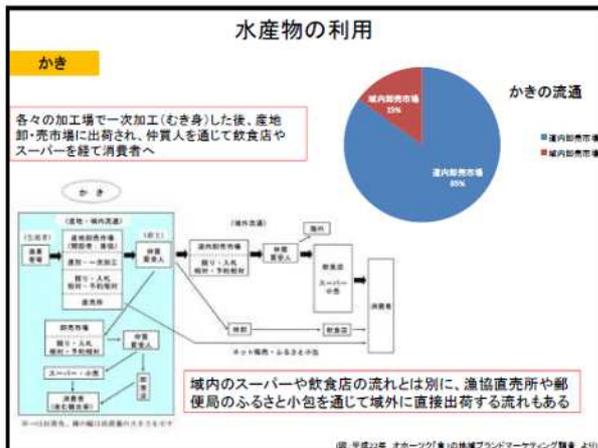
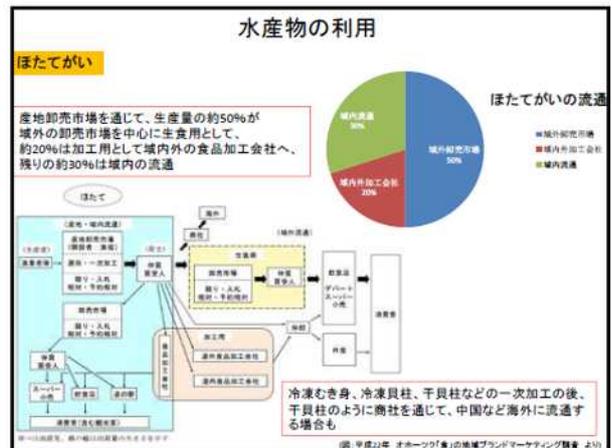


パネルディスカッション

2

【オホーツク圏産業クラスターニーズ調査事業】

～ < オホーツク水産物の利用形態 >



【情報提供～災害大国日本における北見型防災研究の可能性】

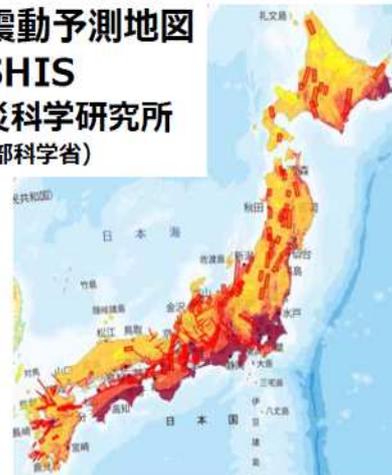
災害大国日本における 北見型防災研究の可能性

日本赤十字北海道看護大学
災害対策教育センター
根本 昌宏



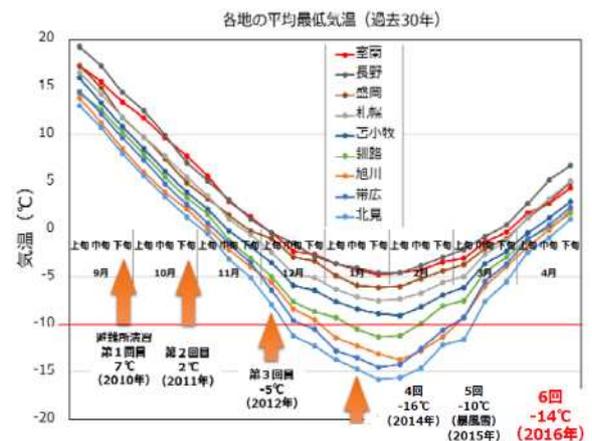
2016年6月8日
産業クラスター研究会オホーツク 平成28年度総会

地震動予測地図 J-SHIS 防災科学研究所 (文部科学省)



安全の産業化

1. 国をはじめとする行政、民間企業の移転・バックアップ機能
2. 産業地盤としての優位性
3. 人材バンクとしての機能
4. 災害時の支援拠点 (防災省 (仮) 誘致)
5. 被災者の受け入れ拠点 (疎開)
6. 陸路、空路、海路
7. 食料自給率



「積雪寒冷地被災」の問題点

暖房と灯りそして情報

- オール電化 → 使用できない
- 石油ストーブ → 使用できない
- ポータブル式石油ストーブ → 大量のCO2
CO中毒の恐れ、暖房効率が悪い
- 水道凍結 (水ならびに食事への影響)

暗時間 (15:00～7:00 約16時間)

安否確認が難しい (移動困難・自宅避難)

段ボールベッドの有用性

1. 温かい (→低体温症対策)
2. 柔らかい、吸湿
3. 動きがスムーズに
(→エコノミークラス症候群対策)
4. 音を遮る
5. ほこり (→インフルエンザ対策)
6. 収納